

保護者の皆さま

神奈川県立横浜旭陵高等学校
校長 大野俊世

令和4年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について(ご報告)

師走の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日ごろより、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、神奈川県では例年、授業改善の取組みに資するものとして年に2回「生徒による授業評価」を実施しております。このたび、今年度の本校における第1回（前期）の実施結果がまとまりましたので、次のとおりご報告申し上げます。

1 アンケート設問

大項目	番号	小項目
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとめ）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。※他者とは、他の生徒・教員等を言う。
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。

アンケートの設問は、県の共通の設定項目である上記の7項目について問が設定されています。その各項目に対して、「4かなり当てはまる」「3ほぼ当てはまる」「2あまり当てはまらない」「1ほとんど当てはまらない」の4段階で評価し、回答します。

2 調査対象者数

実施したアンケートの教科毎の対象者数は次のとおりです。

教科	国語	地歴・公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	総合
人数(人)	801	681	475	486	626	416	481	262	266	484

3 調査結果についての分析（数値は全体平均）

全ての設問で肯定的評価である3と4の評価の割合が高い結果となりました。特に、設問1は89%、設問3・4・7は88%で肯定的評価となっており、「授業のねらいが明確であり、振り返る機会が充実した授業」が行われているという評価を得ることができました。なお、「他者の考えを知り、自分の考えを広げる」（設問5）は肯定的評価が84%であり、例年並みに高い評価を得ることができました。引き続き、授業の中で協働し、自分の考えを深める授業を実践していく必要があると考えます。また、今年度より始まった一人1台端末の活用方法についても職員全体で共有して、これまで以上に授業改善に努めてまいります。

4 今後の授業改善に向けて

昨年度末、本校は「ICT利活用授業研究推進校」指定事業第Ⅱ期の指定を終えましたが、今までの研究で培った成果を基にICT機器の利活用授業方法の全体での共有、さらには、一人1台端末の活用を推進して、生徒の興味・関心を高める研究を各教科で進めていきます。今回の授業評価の結果を受け、より一層生徒の主体性を意識した授業展開から学習内容の定着につながるように工夫を重ねてまいります。

問合せ先
副校長 川島
電話 045(953)1005

5 集計結果

教科	評価	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
国語	4	42.1%	44.3%	45.2%	40.2%	42.3%	38.0%	38.3%
	3	45.6%	42.4%	45.6%	45.9%	43.4%	48.2%	50.1%
	2	10.6%	11.9%	8.1%	12.5%	12.9%	12.6%	9.9%
	1	1.7%	1.4%	1.1%	1.4%	1.4%	1.2%	1.7%
地歴・公民	4	40.5%	41.0%	38.0%	39.6%	40.8%	37.3%	42.7%
	3	48.0%	43.5%	49.8%	47.6%	43.2%	48.0%	45.1%
	2	9.3%	13.1%	10.4%	10.9%	13.7%	12.8%	10.6%
	1	2.2%	2.5%	1.8%	1.9%	2.3%	1.9%	1.6%
数学	4	42.7%	33.5%	41.3%	45.9%	31.8%	36.6%	41.1%
	3	44.2%	48.2%	43.6%	41.9%	47.6%	45.7%	40.4%
	2	10.9%	13.9%	12.6%	8.4%	15.4%	14.3%	14.1%
	1	2.1%	4.4%	2.5%	3.8%	5.3%	3.4%	4.4%
理科	4	42.8%	36.4%	39.9%	45.7%	36.6%	40.5%	43.4%
	3	46.5%	47.1%	50.2%	45.1%	48.4%	48.1%	45.5%
	2	9.3%	13.4%	8.0%	8.0%	13.2%	10.1%	9.7%
	1	1.4%	3.1%	1.9%	1.2%	1.9%	1.2%	1.4%
保健・体育	4	47.6%	39.9%	43.9%	54.2%	38.7%	44.6%	45.5%
	3	42.3%	45.0%	44.4%	36.7%	45.2%	42.2%	43.6%
	2	7.3%	11.3%	9.1%	6.5%	12.3%	10.2%	7.5%
	1	2.7%	3.7%	2.6%	2.6%	3.8%	3.0%	3.4%
芸術	4	50.2%	39.2%	45.7%	50.7%	39.7%	42.8%	48.8%
	3	44.0%	47.4%	45.2%	43.5%	46.6%	47.1%	42.3%
	2	4.3%	10.8%	7.2%	4.6%	10.6%	7.7%	6.7%
	1	1.4%	2.6%	1.9%	1.2%	3.1%	2.4%	2.2%
外国語	4	44.3%	43.9%	40.7%	45.5%	37.2%	36.0%	43.0%
	3	42.2%	42.4%	45.3%	40.5%	45.1%	47.8%	43.0%
	2	10.0%	11.0%	11.4%	10.6%	14.6%	13.1%	9.4%
	1	3.5%	2.7%	2.5%	3.3%	3.1%	3.1%	4.6%
家庭	4	51.9%	46.2%	52.3%	55.7%	46.9%	48.9%	55.7%
	3	40.5%	44.7%	37.8%	37.8%	45.0%	42.0%	38.9%
	2	6.1%	7.3%	8.8%	5.0%	6.5%	7.3%	3.8%
	1	1.5%	1.9%	1.1%	1.5%	1.5%	1.9%	1.5%
情報	4	29.7%	29.7%	29.7%	42.1%	25.6%	31.2%	39.8%
	3	51.9%	42.1%	46.2%	44.7%	50.8%	48.5%	44.0%
	2	15.4%	23.7%	18.8%	9.8%	18.4%	15.4%	13.5%
	1	3.0%	4.5%	5.3%	3.4%	5.3%	4.9%	2.6%
キャリア	4	43.2%	42.4%	42.8%	42.1%	42.6%	42.1%	42.8%
	3	45.7%	46.5%	46.7%	42.6%	43.4%	45.5%	45.7%
	2	8.3%	8.3%	8.3%	12.6%	11.4%	10.1%	8.9%
	1	2.9%	2.9%	2.3%	2.7%	2.7%	2.3%	2.7%
全体平均	4	43.5%	40.1%	42.1%	45.4%	38.7%	39.6%	43.3%
	3	45.1%	44.8%	45.9%	43.0%	45.4%	46.4%	44.5%
	2	9.1%	12.2%	9.8%	9.3%	13.0%	11.5%	9.5%
	1	2.2%	2.9%	2.1%	2.2%	2.9%	2.4%	2.6%

6 教科での分析と改善に向けて

教科	授業評価の結果から読み取れる課題など	今後の授業改善に向けて
国語	<p>○科目全体を通じて、すべての設問の評価が3以上が多い。</p> <p>○設問7の評価は3が多い結果となっている。</p>	<p>○設問7の授業改善として、単元等のまとまりを意識した授業づくりや見通しを持たせ、工夫を図り生徒が理解できるよう努める。</p> <p>○今までの学習との関連付けを意識させ、既習事項を復習する場面などを設ける。</p>
地理・歴史・公民	<p>○教科内の科目全般において、全ての設問で3と4の評価が概ね8割以上を占めている。昨年に引き続き、今年度も感染に配慮しつつグループワークなどの交流の機会を持つ必要があったため、他の設問に比べれば設問2の評価が低かった。それでも、3と4の評価の割合は8割を超えており、他者との意見共有の時間を概ね確保することができていたと考えられる。</p>	<p>○21期生からは1人1台端末の使用が始まっているため、ICT機器をより活用することで、対面ではなくとも他者と意見共有する機会を確保する。また、ICT機器の活用が目的化することなく、よりよい授業改善と生徒の知識技能の習得につながる有効な手段となるよう工夫する。</p>
数学	<p>○設問2・5の評価が比較的低い結果となっている。</p> <p>○設問6の評価が低い結果となっている。実生活との結びつきが弱いと考えられる。</p>	<p>○問題を解く過程の考え方や理由を述べさせることで、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深めることを図る。また、オンライン等を活用して、他者の考え等の共有を図る。</p> <p>○数学の有用性を実感させる授業の工夫をする。</p>
理科	<p>○すべての設問の回答において、評価が4と3の割合が9割程度を占めていた。しかし、設問2・5において、評価が4と3の割合が、9割を数ポイント下回っている傾向が見られる。</p>	<p>○自分の考えのまとめ、学習における課題解決方法について考えることができたという生徒の回答が多かった。それらの活動をクラスルームやロイロノートなどのICTを介して他者の意見を閲覧・コメントできるようにすることで、設問2や設問5の4と3の割合が上昇すると考えられる。</p>
保健体育	<p>○各設問において、おおむね高い評価を得ているが、設問2・5においては、やや低くなっているため、生徒は自分の意見を発信したり、他者の考えを知る機会が少ないと感じていると思われる。</p>	<p>○授業の終盤でチームミーティングをする。</p> <p>○他者の考えを知るために作戦を考える場面を作る。</p> <p>○同じ集団での協議ではなく、集団をシャッフルして色々な生徒同士の関わりを作る。</p>
芸術	<p>○設問2・5について、若干の値の低さがある。その他の設問においては、他教科と比較しても値としては特に大きな問題はないと考えられる。</p>	<p>○「授業内で他の生徒の発言を聞いたり、グループワークで意見を交換したりして、自分の知識を広げること。」の項目の値が低い。しかしこれに対し、芸術科においては、他の生徒の作品を鑑賞して自分の作品に反映したり、教員の指導によって作品の展開が変わってきて、生徒の世界観が広がったりすることを日常的に行っている。したがって結果的に、教科としては、日々授業改善に努めている。</p>

<p>外国語</p>	<p>○設問1について、英語表現Iでは振り返り等の機会があまりなく、生徒の知識定着に向けて単元ごとの振り返りを科目共通で行っていく必要がある。設問4について、科目ごとに差があるが、生徒が学習した内容を実際に使う場面が多くはないように思われる。成功体験を与えるためにも言語活動を多く取り入れていく必要があると思われる。設問5について、生徒が他者の考えなどから自身の理解や考えを深めることができていることが考えられる。一方的な学びではなく、他者との関りから学ぶ工夫が必要だと思われる。</p>	<p>○教科として、単元ごとのまとまりを意識させるために振り返りや確認テストを実施する。また、その結果等から生徒の学習状況や到達度を判断し、生徒の実情に合わせた授業を行うようにする。学習した内容をもとに、グループでの活動や発表等を行うことで、自他の意見や考えを深める機会を設けるようにし、適切なフィードバックを行うようにする。</p>
<p>家庭</p>	<p>○自己の意見として発表する機会があり、しっかりと表現することはできているようであるが、他者の意見を意識して受け止めることができていないように思われる。 ○設問2・5の評価が比較的低くなっているが、自らの学習の枠内で、主観だけで学習を満足している傾向が見受けられる。</p>	<p>○発表をさせた後、他者の意見を聞き、もう一度振り返り、考えに違いが出たかどうかを考えさせる時間をとる。 ○課題解決に向けて、長期休業中を活用してホームプロジェクトに取り組ませる。 ○授業内容を客観的に理解し、具体的な課題を見つけて学習することの重要性を伝える。</p>
<p>情報</p>	<p>○設問1・3の評価が低くなっている。学習のねらいを示したり、振り返りを書かせる活動はしているが、新しい科目となったことで、内容の難易度が上がり、示されたねらいについて授業の内容と結びついていないと思われる。 ○設問2・5の評価が低くなっている。授業内容を聞き取るだけで手いっぱいになっていると思われる。</p>	<p>○授業内容だけでなくねらいについても、スモールステップで実生活の例などを取り入れながら説明する。 ○後期にはプレゼンの授業も取り入れて、発表の機会を設ける。</p>